

(組替) 途上国におけるコベネフィット効果検証・実証事業

215百万円(515百万円)

水・大気環境局 水・大気環境国際協力推進室

## 1. 事業の必要性・概要

我が国は、京都議定書第二約束期間に参加しない一方、温室効果ガスの排出削減に引き続きコミットしており、そのコミットメント達成に向けて、途上国における対策への協力等国际貢献を含め取組を早期に積み上げていくことにより、将来枠組みへの議論を主導的に進めていくことが期待される。その際、途上国においては、環境汚染が深刻な課題となっており、温室効果ガス削減において地域環境改善のコベネフィット効果を有する対策の優先度が高いことから、我が国が有する環境対策技術を活用し、コベネフィット効果を有する取組が有効と考えられる。また、国際交渉において合意された途上国による温室効果ガス排出削減行動(NAMA)を含む新たな市場メカニズムの検討が進められているが、途上国はそれらのノウハウや適切な環境技術・測定技術の不足という課題があり、国際社会による支援が求められている。

本事業では、途上国における温室効果ガス削減対策と環境汚染対策を同時に進めるため、政府間の合意に基づく二国間協力の枠組みも活用し、新たな市場メカニズムを念頭においたコベネフィット効果を有する事業実施に向けた協力等を実施する。

## 2. 事業計画(業務内容)

調査項目	H23	H24	H25	H26
○コベネフィット型削減対策検証・実証事業				
(ア) コベネフィット型事業実現可能性調査の実施				
(イ) コベネフィット技術の実証試験の実施				
(ウ) プロジェクトの測定・報告・検証(MRV)定型化の検討				

### ○コベネフィット型削減対策検証・実証事業

#### (ア) コベネフィット型事業実現可能性調査の実施

アジア諸国との間で二国間の覚書等に基づき実施している協力を踏ま

え、事業実現可能性調査等を行う。

(イ) コベネフィット技術の実証試験の実施

コベネフィット効果を伴う技術の実証施設を用いた調査を行う。

(ウ) プロジェクトの測定・報告・検証（MRV）の定型化の検討

コベネフィット効果を有する NAMA に関する MRV の定型化検討を行う。

### 3. 施策の効果

- 途上国の環境汚染対策及びエネルギー起源 CO2 対策への貢献、我が国の環境技術の普及
- 途上国における NAMA 制定の推進

# 途上国におけるコベネフィット効果検証・実証事業

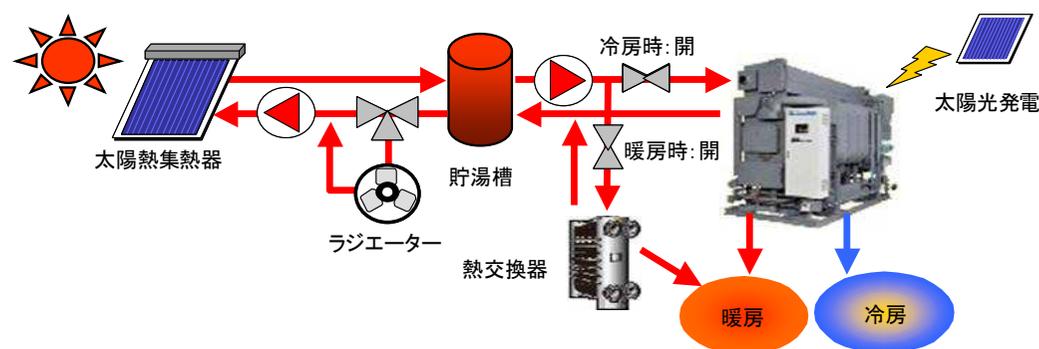
## コベネフィット型削減対策検証・実証事業

(目的)

- 途上国による温室効果ガスの削減対策(NAMA)の策定支援
- 我が国の環境技術を活用したコベネフィット型対策の普及

＜コベネフィット技術の例＞

ソーラー吸収冷温水機を設置することにより温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)の発生を抑制するとともにSO<sub>x</sub>、NO<sub>x</sub>の排出も削減する。



(実施内容)

- ① 現地での環境条件下において適用可能なコベネフィット技術の実証を行うための実験施設の整備
- ② 温室効果ガス削減量・環境改善効果等のコベネフィット効果把握のための測定機器整備及びその測定と検証
- ③ NAMAの透明性を確保するため、測定・検証・報告(MRV)の普遍化・定型化の検討